

中学校給食センター予定地の周辺図



留守家庭児童育成クラブに配食

夏休みの小学生に出来たての味

民間事業者からの提案で、夏休み期間中の「留守家庭児童育成クラブ」の希望する児童に、中学校給食センターで作った昼食を提供（有料）。保温容器で温かい食事を届けます。

汁物や煮込み料理、和え物などの昼食を提供できます。



中学校給食開始までのスケジュール(予定)

	令和元年度	2年度	3年度	4年度
要求水準の策定				
事業者選定			現在	
設計				
建設工事				
中学校給食開始				

中学校で手作りハンバーグが食べられる

給食に焼き・蒸し料理が登場

中学校給食では、焼き・蒸し調理を1台で行える右のスチームコンベクションオーブンを導入。手作りハンバーグや焼き魚、その他シューマイなども可能になります。献立の幅が広がり、より充実した給食が提供できます。



対応していきます。

育ち盛りの中学生にとって、栄養管理は重要です。市立小学校給食の持ち味を受け継ぎ、献立の作成と食材の選定、発注は市が実施します。

また、小学校と同様に牛乳と主食、副食がそろったものを提供。週5日の完全米飯給食で、副食は3品程度の和食の献立を中心とします。手作り調理を基本として取り組みます。

学校給食を通じた食育の推進をめざして

中学校においても、学校給食を生きた教材として活用。家庭科や理科、社会など各教科の食に関する指導と関連付けていきます。

同センターでは、調理風景を見学できる見学ルームを設置。会議室や調理実習室を兼ねており、申し込みがあれば中学生以外の人も見学や給食の試食ができます。また、食育イベントなどの実施も検討していきます。

今後の進捗状況は、広報誌や市ホームページなどで、順次お知らせします。



スタートまであと2年

安全・適温で届ける 中学校給食

問い合わせ
学務課 ☎(740)1243

給食センターの設計を開始

中学校給食の 委託事業者を決定

令和4年9月からの中学校給食開始に向け（仮称）川西市中学校給食センターの委託先が決定しました。

中学校給食事業には、民間事業者が持つ技術を活用するPFI方式を導入。代表企業を中心として、設計・建設、運営、維持管理までを一括管理します。

建設場所は市立川西南中学校第2グラウンドの一部です。令和2年10月から3年4月にかけて、施設設計を行います。

安全・安心で栄養満点 食物アレルギーにも配慮

同センターでは、厳格な安全衛生管理のもと、市内7中学校の約4100食を一括調理。適温で食べられる保温機能に優れた容器を使用して、調理後2時間以内に生徒の元へ届けます。

食物アレルギー対応では、専用調理室を設け、食器も別に管理。対応品目は卵だけでなくエビやカニなど、可能な限りアレルギー食材について

小学校給食の良さをそのままに

中学校給食は、10年以上の歳月をかけ、実施方式やコストなど慎重に検討を進めてきました。そして、市の現状を踏まえ、民間企業のノウハウを活用できるPFIを導入したセンター方式による実施が適切であると決定。令和4年9月からの実施に向け、着実に準備を進めています。

中学校給食で教育委員会が重視しているのは、市立小学校給食の良さをできるだけ受け継ぐことです。

現在、小学校では、週5日の米飯給食を実施しています。それに加え、和食中心の献立で、だしを原材料から取るなど、手作りの味

を大切にしたいと考えています。

また、食物アレルギーへの対応では、除去食などの対応品目を小学校よりも拡大し、より多くの生徒が安心しておいしい給食を食べることができるよう検討を進めています。

いよいよ、2年後には中学校給食がスタートします。川西の中学生が楽しく給食を食べる姿を思い描きながら、しっかりと準備を進めていきます。

子育て世代の声をかたちに

「中学校給食っていつ始まるんですか？」
このようなご質問を、市民の皆さまから度々頂きます。

中学校給食に関しては、実施の是非や実施方法について長年にわたり検討されてきた経緯があります。

子どもたちの成長や、子育て世代の生活を支援するために、市長就任直後から取り組んでおり、令和4年度から実施することとなりました。

そして、単に中学生に昼食を提供するだけでなく、新たな価値を生み出していきたいと考えています。食物アレ

ルギー対応を徹底し、できるだけ多くの子どもに同じメニュー、あるいは限りなく近いメニューを提供することにより、全員がそろって給食を食べられるようにします。

また、中学校給食センターを活用して、夏休み期間中の学童保育利用児童（希望者）への食事を提供します。これは、子育てと仕事の両立を支援する市独自の新しい取り組みです。

私も現在2人の子どもの育てる親の一人です。全ての子どもたちの成長を願い、子育て世代の声をかたちにするための取り組みをさらに進めてまいります。

市長 越田 謙治郎

教育長 石田 剛